

2020年6月5日

## 株主の皆様へ

会社名 住友金属鉱山株式会社  
代表者 代表取締役社長 野崎 明  
問合せ先 法務部 (03-3436-7704)

### グラスルイスのレポートに対する当社の見解について

今般、議決権行使助言会社である Glass, Lewis & Co., LLC (以下「グラスルイス」といいます。) は、2020年6月26日開催予定の当社第95期定時株主総会議案についての分析および議決権行使推奨を2020年6月1日に公表いたしました。これに対する当社の見解について、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

##### 1. グラスルイスの見解

グラスルイスは、当社の監査役会の構成がグラスルイスの定める監査役会の独立性基準(独立社外監査役が過半数を占める)を満たさないことを理由に、また、社外監査役候補者である吉田亙氏がグラスルイスの定める独立性基準を満たさないことを理由に、第3号議案「監査役3名選任の件」のうち、猪野和志氏および吉田亙氏に対して反対推奨をしています。

##### 2. 当社の見解

###### 1) 監査役候補者である猪野和志氏に対する反対について

グラスルイスは、当社の監査役会の構成がグラスルイスの定める監査役会の独立性基準(独立社外監査役が過半数を占める)を満たさないことを理由に猪野和志氏に対して反対推奨をしております。これに対する当社の見解は、以下のとおりです。

当社は、監査役の半数以上を独立した社外監査役とする一方、当社グループの事業や業務に精通した当社出身の監査役をも選任することにより、全体として実効的な監査が行われるように確保しております。すなわち、当社出身の常勤監査役は社内の情報を的確かつタイムリーに収集し、これに基づき的確な監査を実施する一方で、独立社外監査役は様々な専門知識や多角的な視点を生かしつつ独立した監査を実施することとしており、これにより、全体として、当社の監査の実効性や有効性が高まっていると考えております。また、当社は、監査役が計画的かつ効率よく監査を行うための体制を整えており、当社出身の監査役と独立した社外監査役が適切に連携しつつ厳正な監査を存分に行っていただいていると考えております。

## 2) 社外監査役候補者である吉田亙氏に対する反対について

グラスルイスは、吉田亙氏が「以前に当社の取引先の顧問に就任していた」という理由で同氏に対して反対推奨をしております。これに対する当社の見解は、以下のとおりです。

吉田亙氏は、2016年3月に新日鐵住金株式会社（現日本製鉄株式会社）顧問および当該会社の子会社である日本ウジミナス株式会社の代表取締役社長（常勤）に就任しておりましたが、2019年12月にいずれも退任しております。

2019年度において、当社と日本製鉄株式会社との間で製品販売に関する取引がありますが、当社の同社に対する売上高は0.5百万円であり、当社（単体）の売上高に占める割合は0.0%です。また、当社から同社に対する支払いはありません。

当社は日本製鉄株式会社の株式を2,929,006株保有しておりましたが、2020年3月末までに全株式を売却しました。また、日本製鉄株式会社は当社の株式全てを売却しております。

以上のことから、当社としては、吉田氏の独立性について問題は存しないものと考えております。

### <ご参考>

#### ① 丸紅株式会社との関係について

吉田亙氏は、2009年2月に丸紅株式会社の顧問に就任し、2016年2月に退任しております。

2019年度において、当社は丸紅株式会社との間で電気銅等の製品販売に関する取引がありますが、当社の同社に対する売上高は10,428百万円であり、当社（単体）の売上高に占める割合は1.4%です。また、当社は同社との間で金属製品の原料等の仕入れに関する取引がありますが、当社の同社に対する支払額は12,759百万円であり、同社（単体）の売上高に占める割合は0.3%です。

#### ② 日本ウジミナス株式会社との関係について

当社は、日本ウジミナス株式会社との間に取引関係は有しておりません。

なお、吉田亙氏は会社法に定める社外要件、株式会社東京証券取引所が定める独立性基準および当社の独立性基準を満たしており、当社は同氏を独立役員として指定し株式会社東京証券取引所に届け出ています。

以上